

肺炎球菌予防接種説明書

※予防接種前に必ずお読みください。

【予防接種の効果】

肺炎の原因となる最近・ウイルスには様々な種類がありますが、日常でかかる肺炎の原因菌で最も多いのは肺炎球菌です。肺炎球菌ワクチンを接種しておくことで、肺炎の予防や肺炎にかかっても軽い症状ですむ効果が期待されます。

【接種前に注意すること】

予防接種を受ける方または家族の方などは、肺炎球菌の予防接種の効果や副反応などについて十分理解しましょう。気にかかることがあれば予防接種前に質問し、内容を理解できない場合は接種を受けないでください。また、予診票はもれなく記入して、正しい情報を接種する医師に伝えましょう。

【予防接種を受けることができない方】

- 明らかに発熱（通常37.5℃以上）している方
- 重篤な急性疾患にかかっている方
- 過去に肺炎球菌の予防接種に含まれる成分で過敏な反応を経験したことがある方
- 上記以外に医師が予防接種を行うことが不適当な状態にあると判断した方
- 過去に肺炎球菌の予防接種を受けたことのある方

【担当医師と相談が必要な方】

- 心臓や血管、腎臓、肝臓、血液の障害などの基礎疾患がある方
- 他の予防接種を受けて、2日以内に発熱があった方や全身性の発疹などアレルギーが疑われる症状が出たことがある方
- 過去にけいれんをおこしたことがある方
- 過去に免疫に異常があると診断されたことがある方や両親や兄弟に先天性免疫不全症の方がいる方、また、免疫を抑える可能性のある治療を受けている方
- 肺炎球菌の予防接種の成分に対してアレルギーをおこすおそれがある方
- 既に他の薬を使用している方や、新たに他の薬を使用し始める方

裏面へ続く

【予防接種後に注意すること】

- 予防接種後30分間は、急な副反応（アナフィラキシー様症状）が起こることがありますので、注意しましょう。
- 肺炎球菌予防接種の副反応の多くは24時間以内に出現しますので、特にこの間は体調に注意しましょう。
- 接種当日の入浴は差し支えありませんが、接種後1時間を経過してから入浴してください。また、注射部位を強くこすることはやめましょう。
- 接種後24時間は、大量の飲酒と激しい運動を避けましょう。
- 他の医師を受診したり、他の予防接種を受けたりする場合は、必ず肺炎球菌の予防接種を受けたことを医師、薬剤師または看護師に伝えてください。

【副反応について】

予防接種後、まれに副反応が起こることがあります。また、予防接種と同時に、他の病気がたまたま重なって現れることがあります。予防接種後、接種部位が痛みや熱をもってひどく腫れたり、全身のじんましん、繰り返す嘔吐、顔色の悪さ、低血圧、高熱などが現れたりしたら、医療機関で受診（保険診療になります）してください。

注：「アナフィラキシー様症状」とは通常接種後30分以内に起こる急性の全身アレルギー反応のことです。発汗、顔が急に腫れる、全身にひどいじんましんが出る、吐き気、嘔吐、声が出にくい、息苦しいなどの症状に続き、血圧が下がっていく激しい全身症状のことです。